

パース・平面プランの描き方



●イメージパース



●平面イメージプラン



Air Screw
Leonardo da Vinci

This Homepage.....
of the Interior Coordinator,
by the Interior Coordinator,
for the Interior Coordinator.

■ 平面プラン（平面図）

ステップ 1：下書き・・・定規を使って下書き

ステップ 2：フリーハンド・・・フリーハンドで清書

ステップ 3：下絵の完成・・・平面の絵を立体的に手直して下絵の完成

★ここで第2回目の添削です！

ステップ 4：ドローイング・・・下絵をトレーシングペーパーにトレース

ステップ 5：カラーリング・・・トレースした下絵をコピーしてマーカーで着彩

★ここで第3回目の添削です！

■ パース（パースグリッド）

ステップ 6：下書き・・・定規を使って床に影を描く

ステップ 7：立体化・・・床の影を直方体に立ち上げ

ステップ 8：ディテール・・・直方体の中にエレメントのディテールを描く

ステップ 9：背景・・・窓・出入口・廻り縁・幅木など部屋の背景を描く

ステップ 10：ウィンドートリートメント・アクセントラグ・・・カーテン・床を描く

ステップ 11：添景・・・照明器具・観葉植物・小物の準備

★ここで第4回目の添削です！

ステップ 12：ドローイング・・・下絵をトレーシングペーパーにトレース

ステップ 13：カラーリング・・・トレースした下絵をコピーしてマーカーで着彩

★ここで第5回目の添削です！

□ 道具・材料について・・・一般の製図道具の他に次のようなものが必要になります

- ・マーカー（コピックスケッチ等 20～30本）→ステップ5参照
- ・ドローイングペン（コピックマルチライナー等 0.1mm 0.3mm 各1本）
- ・マーカーパッド（PMパッドホワイトA4等）・・・練習帳に5枚付
- ・トレーシングペーパー（厚めのもの）・・・練習帳に5枚付

□ 添削について・・・

- ・添削に要する日数は1～2週間（通常1週間）をめどに返送します。
- ・質問は質問用紙に書くか、付箋に書いて作品に添付してください。
- ・添削は必ず指定の封筒に入れて郵便もしくはメール便にて送ってください。
（普通郵便・メール便は郵便事故の補償がありません。それを心配される場合は、配達記録や
エクスパック等をご利用ください。その場合、返送分の追加料金は切手を同封してください。）
- ・添削はキットがお手元に届いてから1年間までとし、追加の添削は別途有料にて承ります。
- ・添削を送るときにメールでご一報ください。

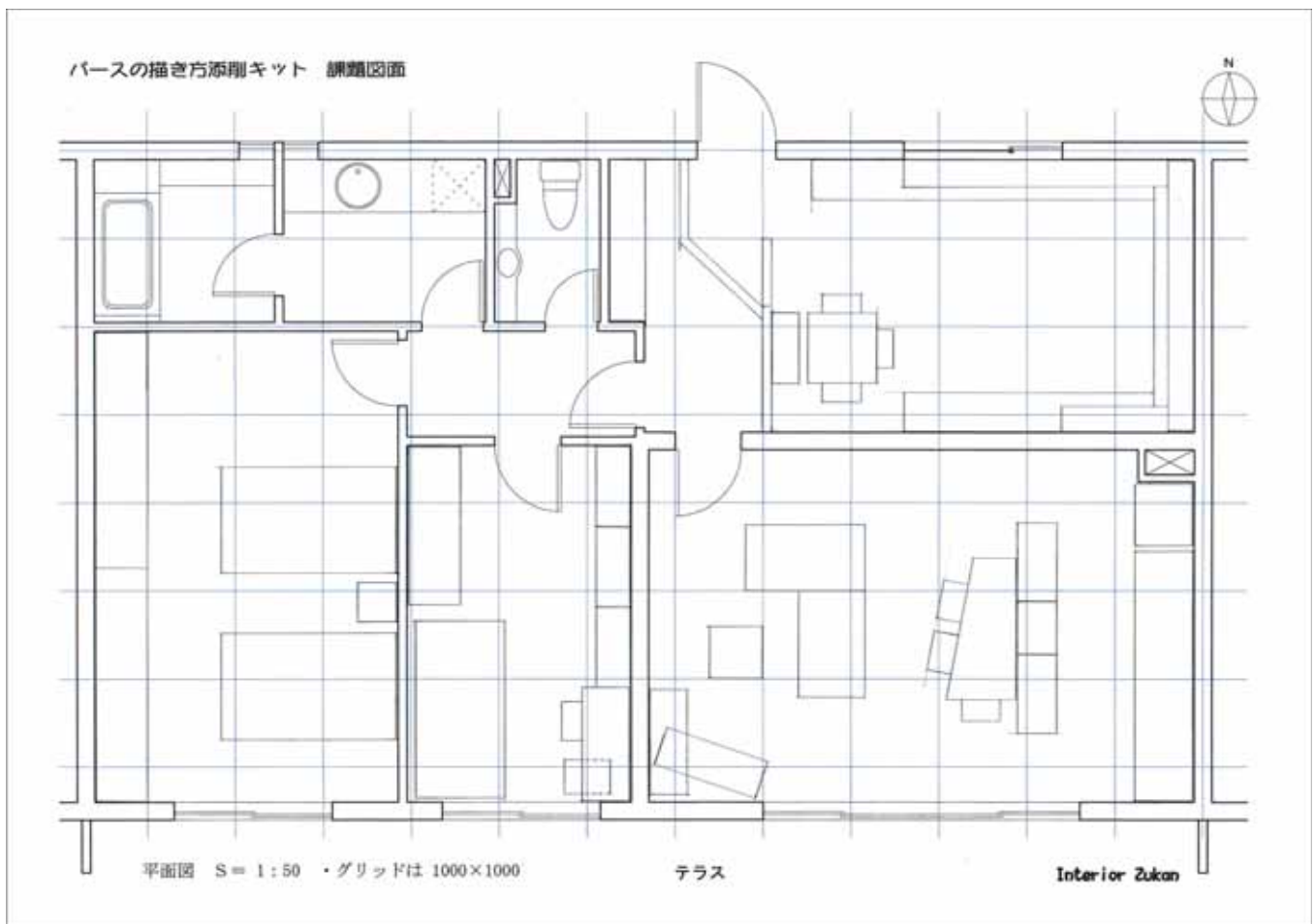
□ 連絡先・送り先

インテリアコーディネートオフィス 添削係
〒500-8269 岐阜市茜部中島2丁目1-1
Tel 058・275・6121 Fax 058・275・6122
E-mail: zukan@icoffice.co.jp

ステップ 1 : 下書き

平面プラン

- 課題図面用紙に定規を使って下書きをします。
 - ・練習帳の課題用紙の条件に従って家具等のエレメントを選びます。
 - ※練習では、カタログのあるエレメント（寸法・色・形がわかる物）を選ぶようにしましょう！
 - イメージだけで選ぶと、あとでパースが描けなくなります！
 - ・エレメントが決まったら平面プランを課題図面に下書きをします。
 - ※ここでは三角スケールや平行定規を使って直線で縮尺を正確に描き込んでいきます。
 - ・描き終わったら、全体がバランスがとれているかをチェックして次へ進みます。



準備はしっかりと・・・



●カタログ



●道具



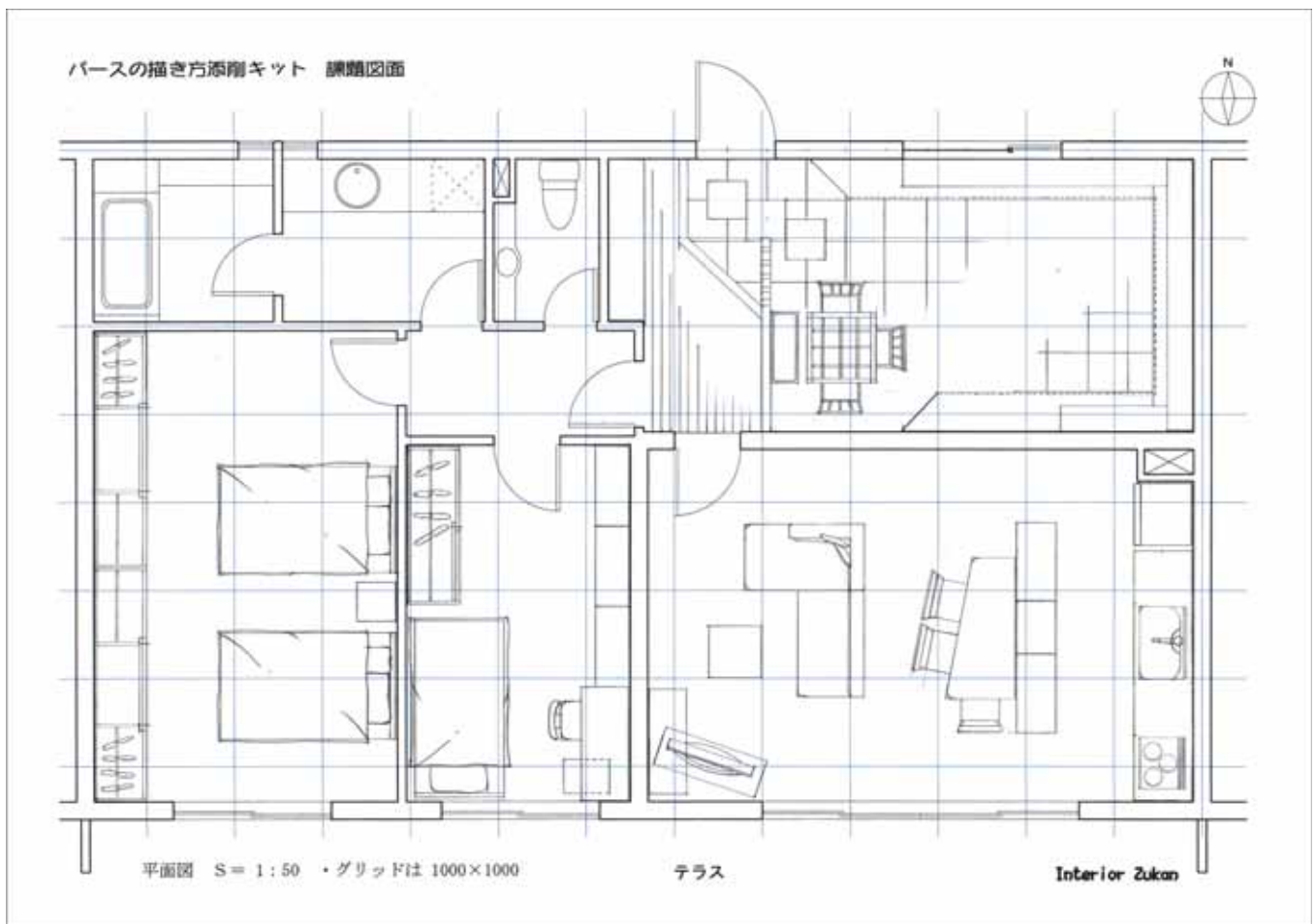
●添削担当の Tomoco です

ステップ 2 : フリーハンド

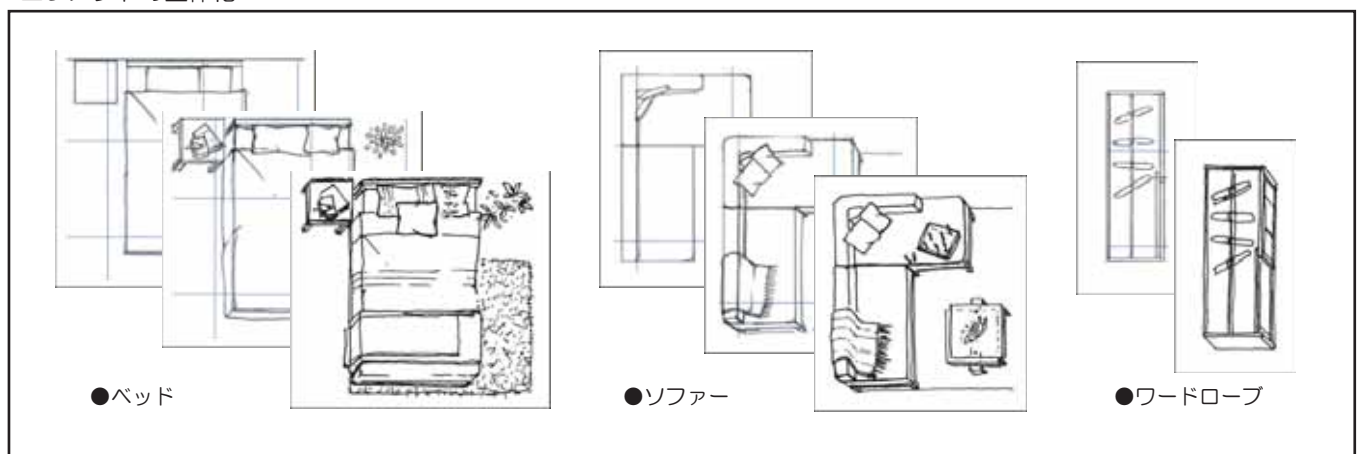
平面プラン

●フリーハンドでエレメントを仕上げます。

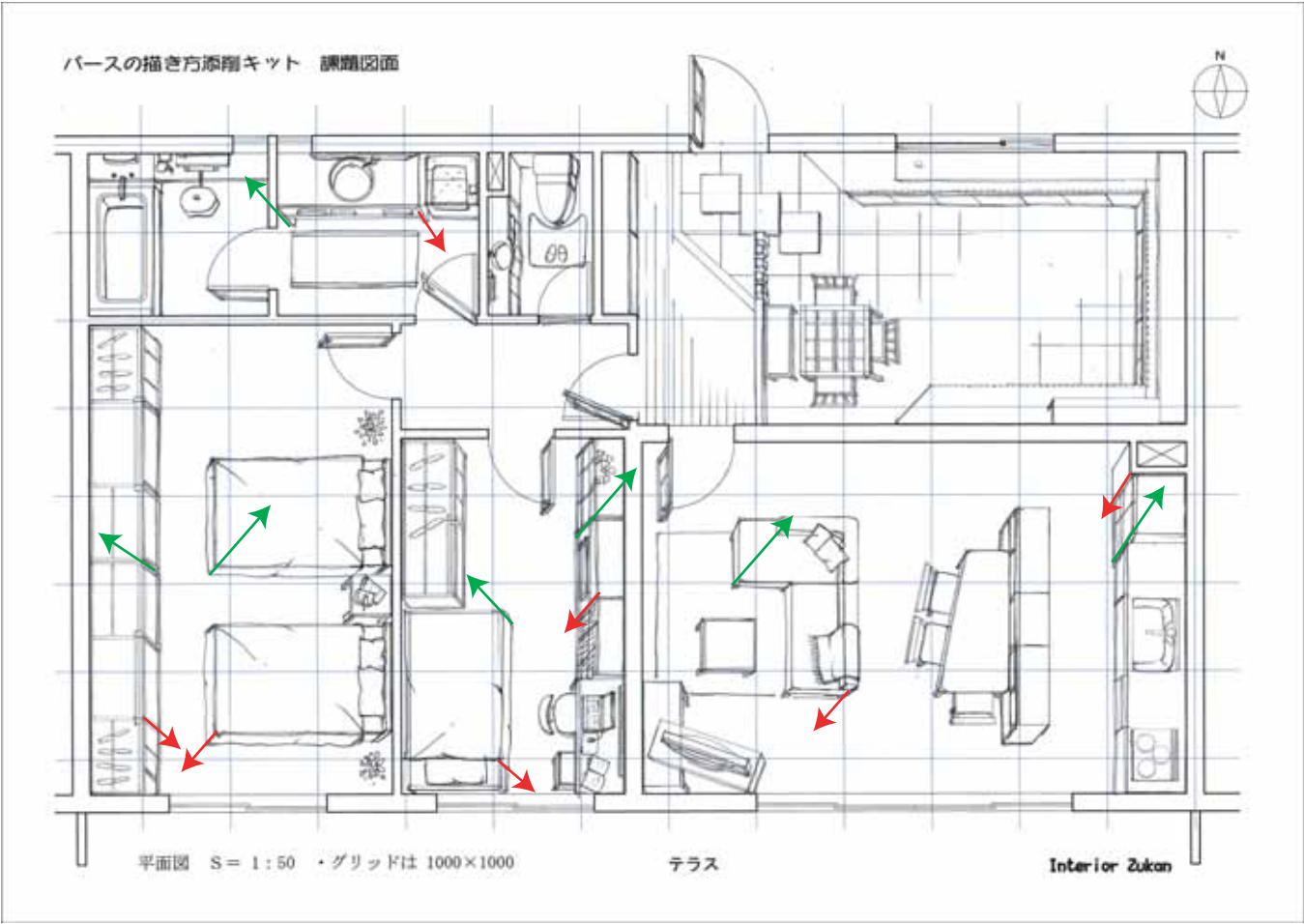
- ・木製家具のように直線でできている物は定規を使って、ソファやなどのファブリックはフリーハンドでそれらしく見えるように形を整えていきます。
- ※ワードローブなど収納家具は中が見えるように描くとリアルな雰囲気を出せます。
- ※ソファやベッドなどのファブリックの部分は質感がでるようにしわを描きます。
- ※キッチンなどのエレメントもカタログをみてそれらしく見えるようにします。
- ※フリーハンドと定規を使った線が混じりますが違和感の無いよう描けるように練習しましょう。
- ・ここで下書きを完成させてもOKですが・・・



エレメントの立体化



- 平面の絵を立体的に見えるようにします。
 - ・俯瞰図（フカンズ）はM点法を用いて描くのが一般的ですが、ここでは斜投影図法を利用して描きます。
 - ・M点法ですとVPを決めますが、斜投影図法ですからVPは無く立ち上げる（ここでは立ち下げますが）方向だけ決めます。
 - ※立ち上げ（下げ）方向を2方向に設定すると部屋の両側が立ち上げ（下げ）られます。
 - ・高さが不自然にならないように立ち上げる（下げる）高さに注意して描いていきます。
 - ※少しでも立体的に見える程度に描くのがコツです。
 - ・バスルームや建具も同じ要領で描き、小物なども描き加えましょう。



Point・・・緑矢印線のように立ち上げるイメージで赤矢印線のように立ち下げてください！

★ここで第2回目の添削です！

平行投影図法（投影図法）

斜投影図法		軸測投影図法	
キャビネット図	カバリエ図	等角投影図法（アイソメ）	二等角投影図法（アクソメ）

透視投影図法（透視図法）

一点透視図法 （平行透視図法）
二点透視図法 （有角透視図法）
三点透視図法 （斜透視図法）
ステップ7へ

ステップ 4 : ドローイング

平面プラン

●下絵を、トレーシングペーパーにドローイングペンを使ってトレースします。

・下絵の上にトレーシングペーパーを重ねてずれないようにメンディングテープで固定します。

※トレーシングペーパーは、下絵と同じサイズで厚めのものが使いやすいと思います。

・線はドローイングペンの0.3mmを使って、大胆に思い切って描きましょう。

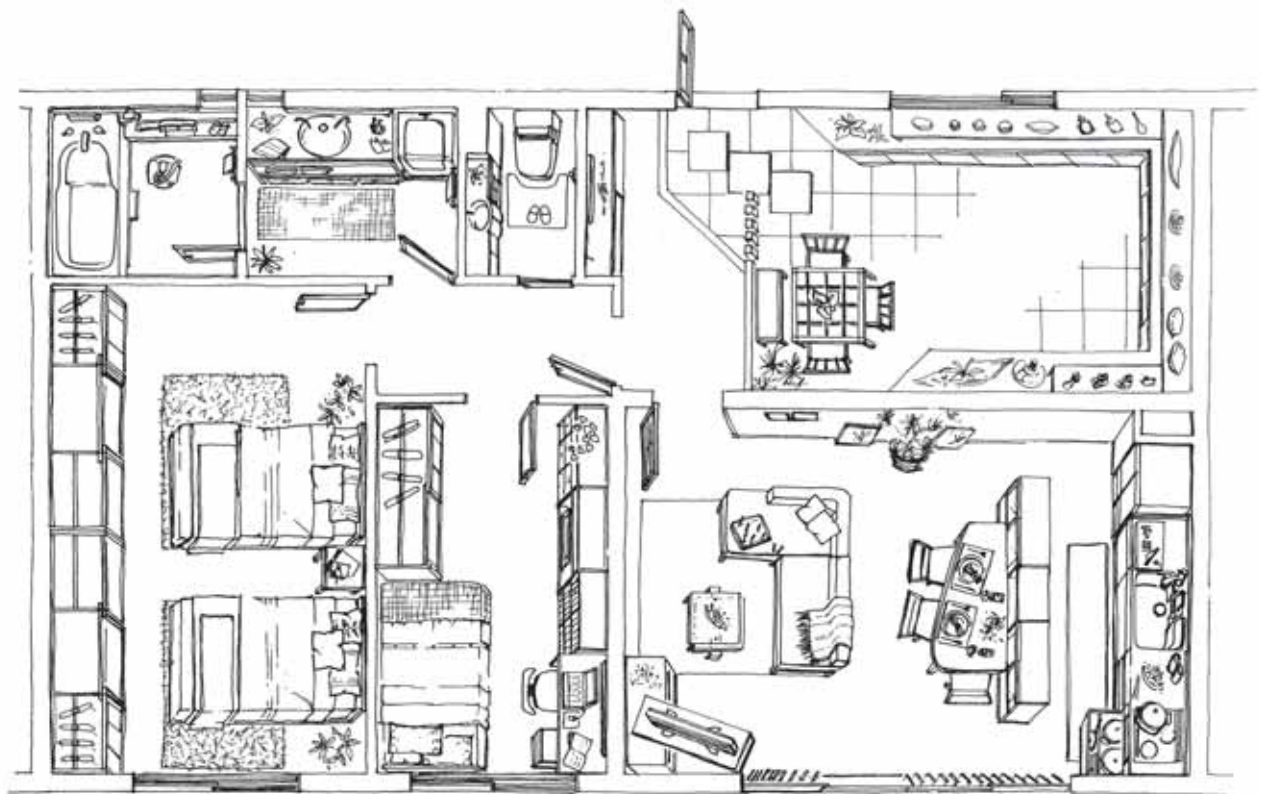
※少々ゆがんだりまがったりしても、始点と終点をしっかりと描けばそれなりに絵になります。

・ドローイングは、フリーハンドで手前のものから奥へ順にトレースしていきます。

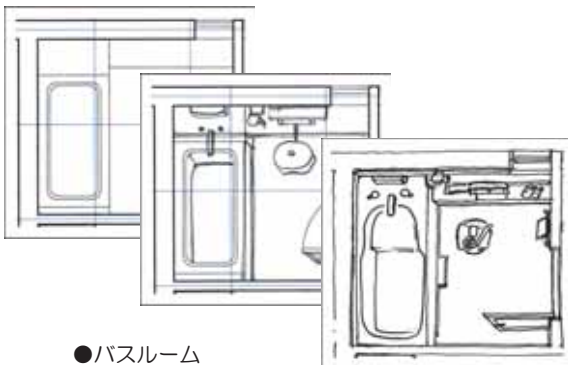
・ここでも、アクセントラグの柄とか小物などを描き加えます。

※細かいところは0.1mmのドローイングペンを使います。

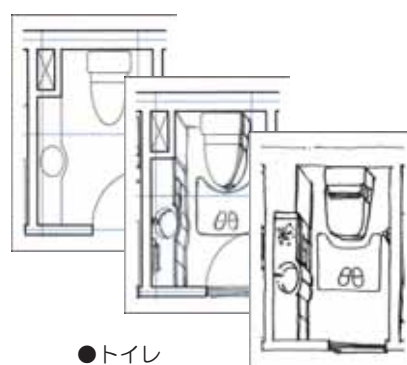
Point・・・時間をはかって、はやくトレースする練習をすると勢いのある線が描けるようになります。



住宅設備の立体化



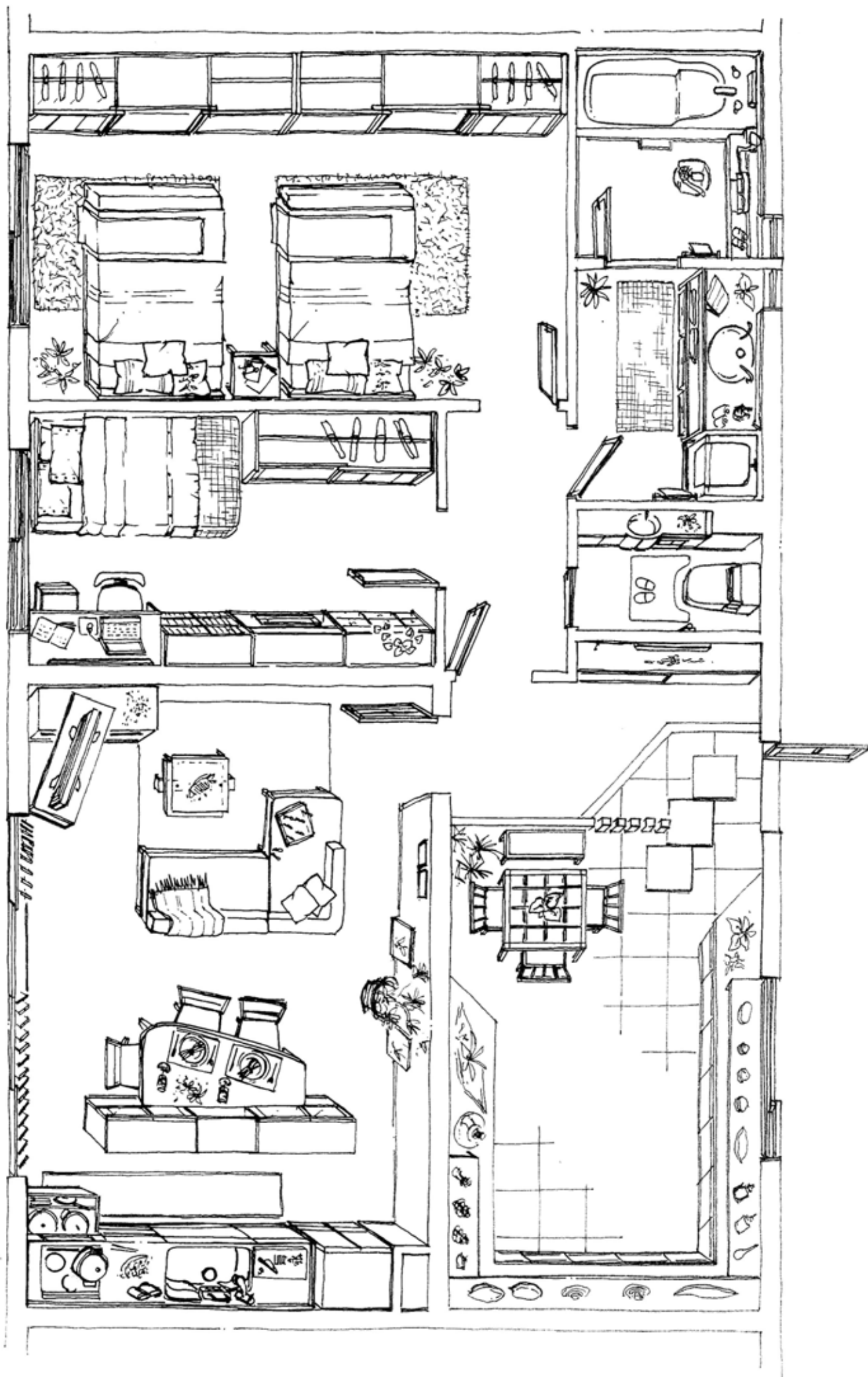
●バスルーム



●トイレ



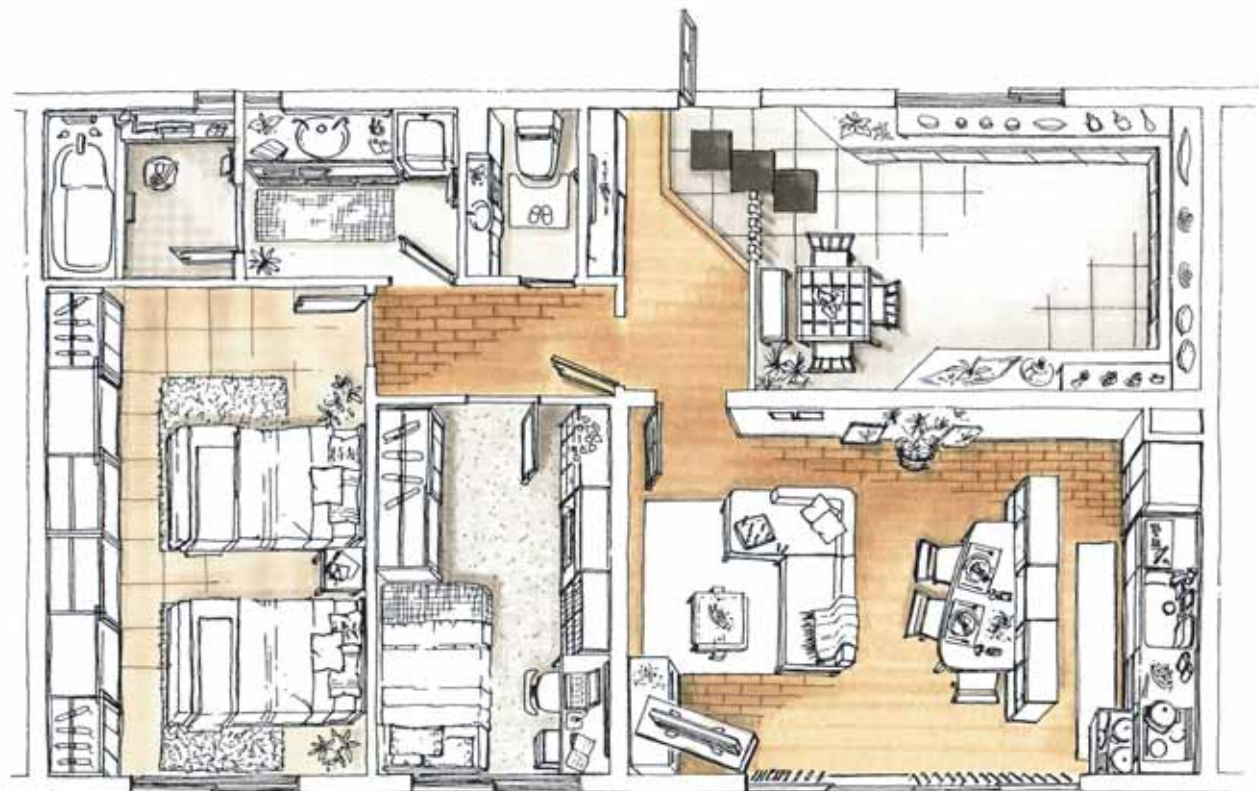
.Too ¥210 /本



●床のカラーリング

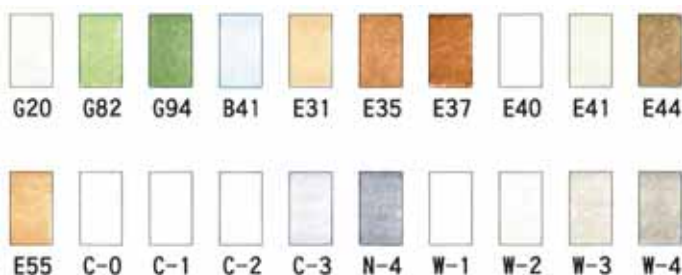
- ・トレーシングペーパーにドローイングした下絵を、必要なサイズに縮小してマーカーパッドにコピーします。
※下絵を大きめに描いて縮小したほうがきれいに見えます。
- ・同じ色を重ね塗りすると濃くなりますから、薄いところから着彩していきます。
- ・床のイメージは着彩する前に鉛筆やドローイングペンで下書きをしておきます。
※フローリングやタイルのラインは床の反射を考慮して入れます。
- ・床は全体を重ねたり透かししたりして濃淡をつけて塗り、エレメントの影や光の反射を同色で表現します。

Point・・・使ったマーカーは番号がわかるようにメモをしておきます。



※PMパッドに着彩するとこんな感じになります。実際の色はお店で確認してください。

「いんてりあ図鑑」が選んだベーシックカラー20色
COPIC sketch [Too ¥399 /本]



Tomoco おすすめの追加10色
COPIC sketch



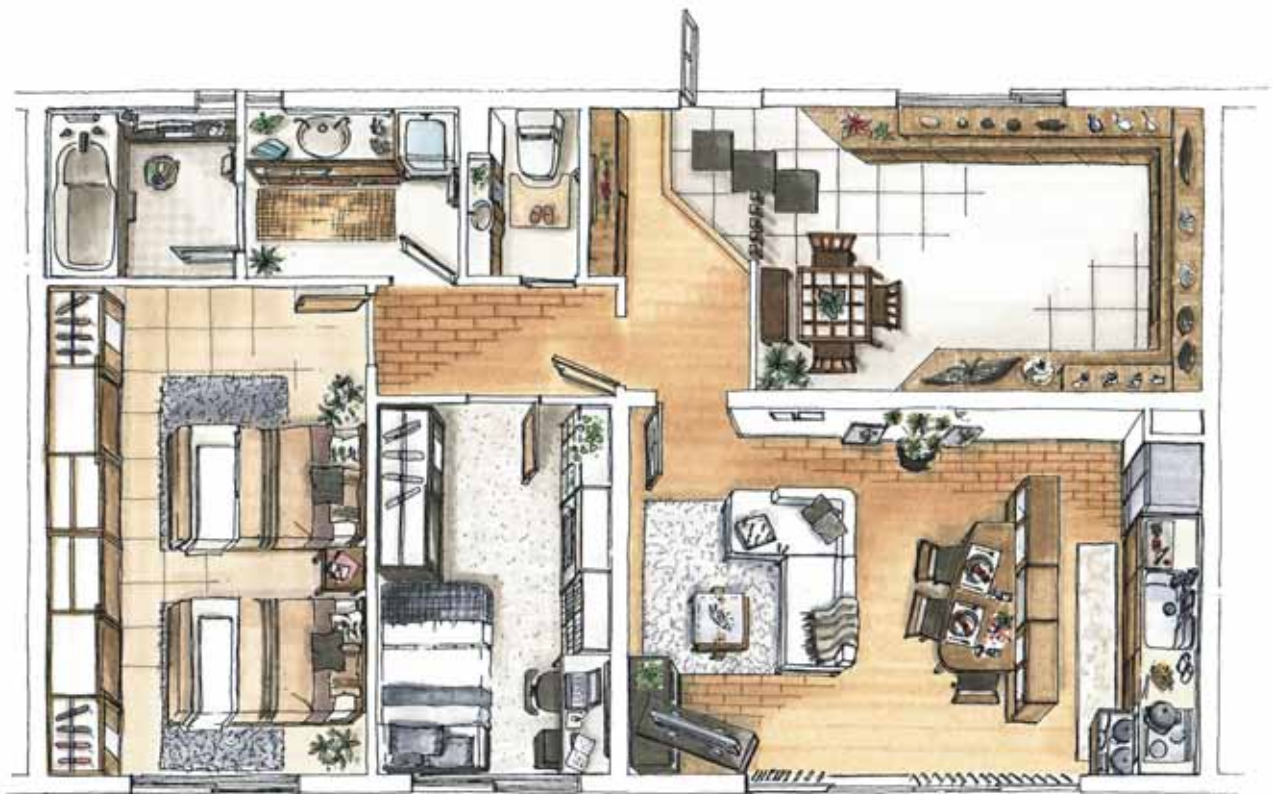
ステップ 5-2 : カラーリング

平面プラン

●エレメントのカラーリング

- ・ マーカーは重ね塗りによる混色はできませんから、ほかの紙で色を確認してから着彩するようにします。
※混ぜると濁った色になってしまい、マーカーのニブも汚れてしまいます。
- ・ マーカーのニブのミディアムブロードは堅いイメージ、スーパーブラシは柔らかいイメージがだせます。
※細かいところでもミディアムブロードでも塗れるように練習します。
- ・ 細かい作業で慣れるまでは大変ですが、ひとつひとつカタログを見ながら丁寧に塗るのがコツです。

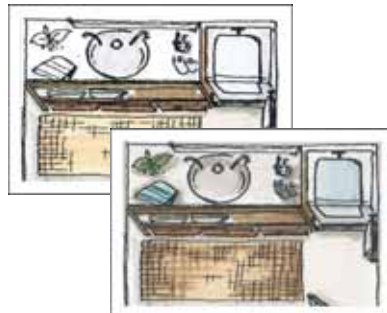
Point・・・気に入った着彩ができたならマーカーの色番号を覚えておくと、次に塗るとき役に立ちます。



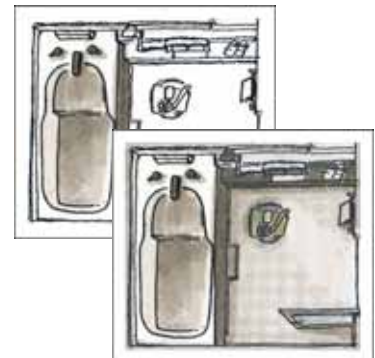
カラーリングテクニック



●ベッド



●洗面ユニット



●バスユニット

ステップ 5-3 : カラーリング

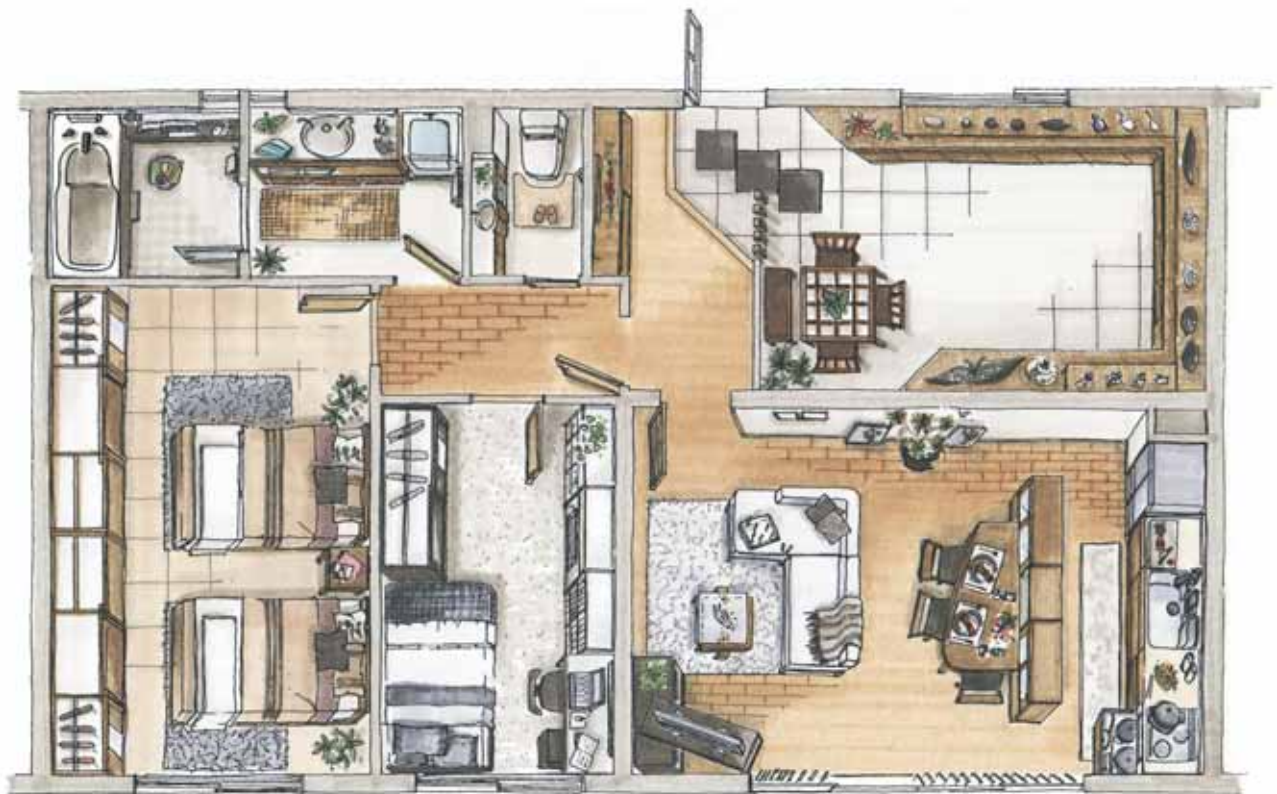
平面プラン

●壁のカラーリング

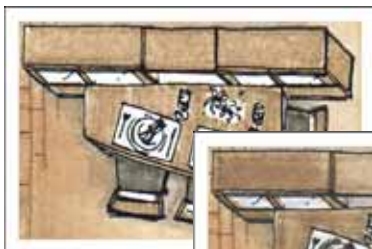
- ・最後に壁の部分を着色します。この色で「RC」とか「木造」のイメージが決まってきます。
- ・塗り終わったら、全体のバランスをみてチェックします。

Point・・・この方法は平面図さえあれば数時間でできるようになります。M点法を用いた俯瞰図は手間がかかりますが、このように斜投影図法を利用することによって、矛盾するところも出てきますが、簡単にこのようなプレゼンができ上がります。

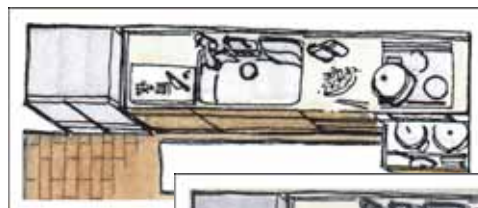
★ここで第3回目の添削です！



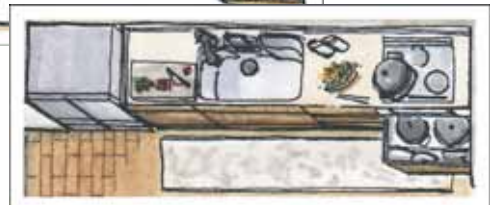
カラーリングテクニック



●ダイニング

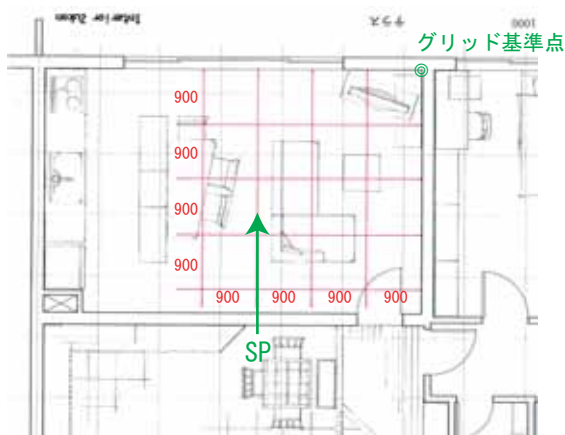
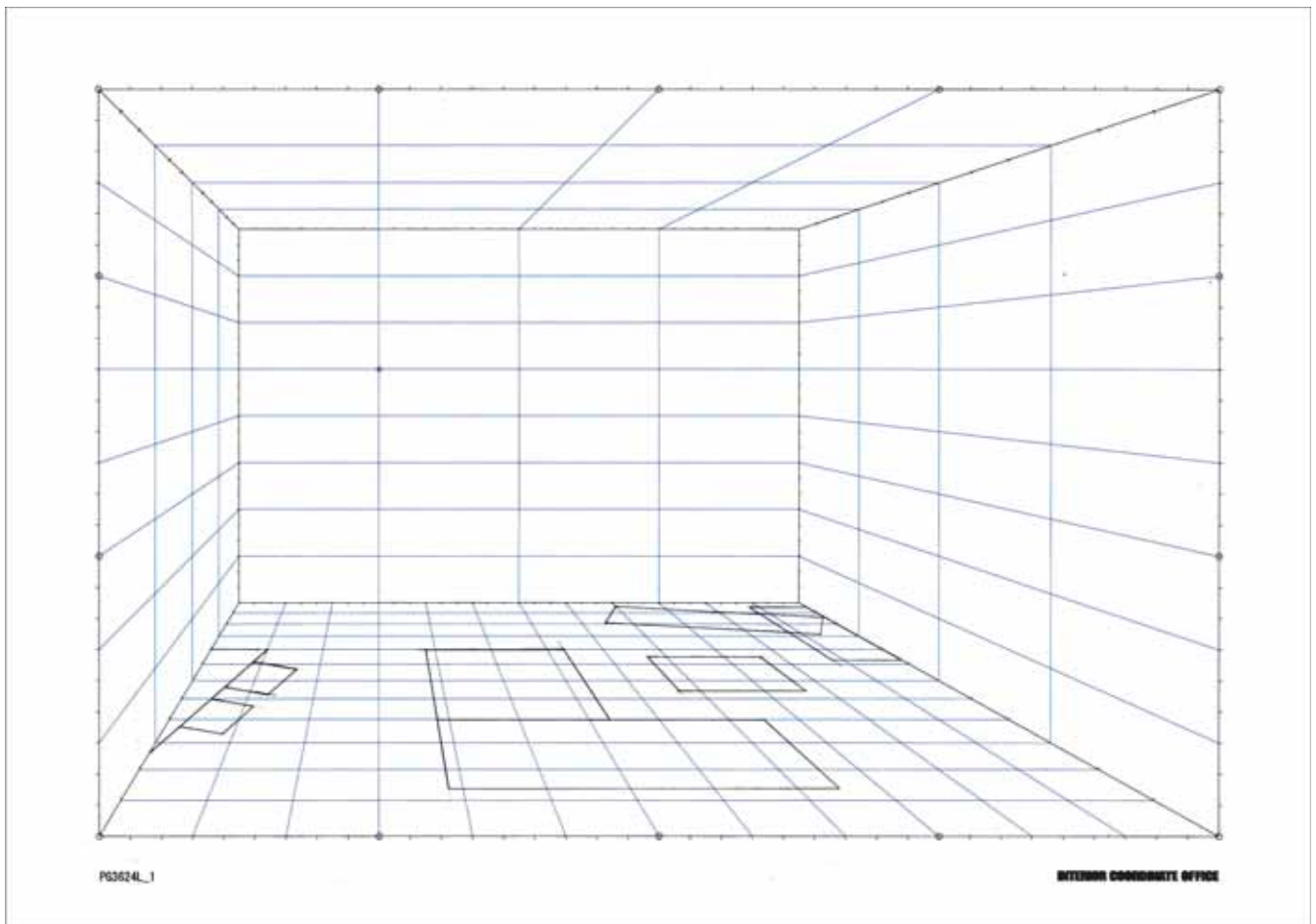


●キッチン



●定規を使って床のグリッドにエレメントの影を描きます。

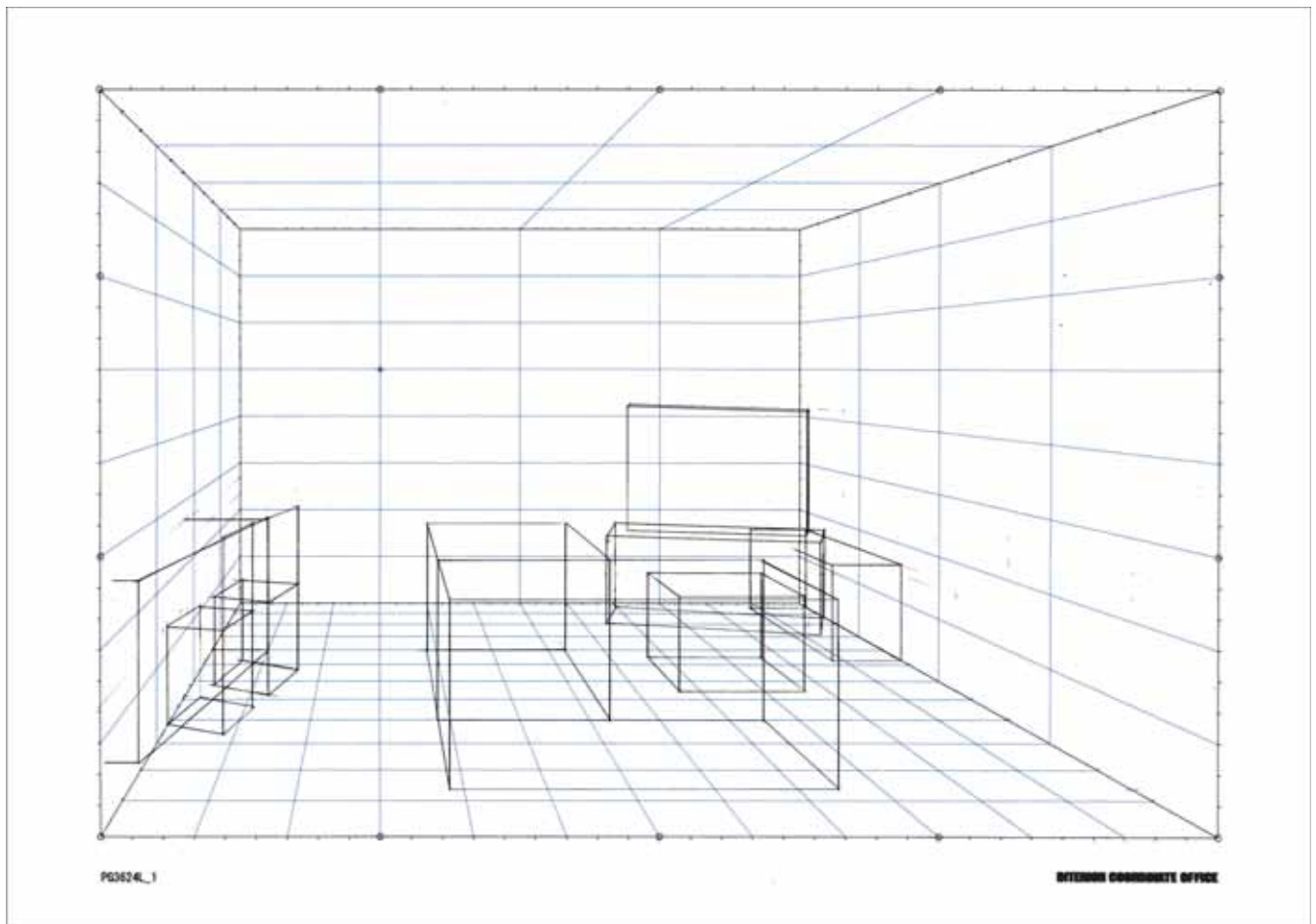
- ・平面プランのどこの部分を、そしてどの方向からパースを描くかを決めます。
- ・平面プランをコピーしてパースグリッドの床のグリッドに合わせてグリッドを引き直します。
※平面の元のグリッドが1000mmグリッドですので900mmグリッドにします。
(パースグリッド集は900mmグリッドでつくってあります)
- ・課題パースは練習帳のA4サイズでも別添のA3サイズでもどちらでもかまいません。
※下絵は大きめに描いて縮小した方がきれいに見えます！
- ・今回、右側面の壁を優先しますので右壁の奥が基準になり、左側の壁のグリッドは無視します。
- ・描き方は「パースグリッドの使い方」を参考にしてください。



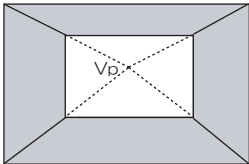
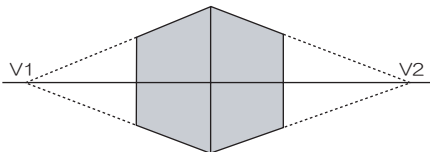
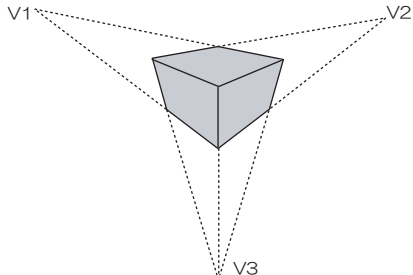
- 今回、間口3600mmのパースグリッドを選んでいきます。
そしてLDの一部(右半分)のみのパースです。1消点ですと両側の壁まで描くのが普通ですが、このような描き方をすると、2消点みたいな広がり感をだすことができます。
- 見せるポイントをよく考えてパースグリッドを選び、グリッドの基準点を決めて、グリッドを引き直します。この時点で、パースの見栄えが決まってしまう。
- パースグリッド集には35種類のグリッドが入っています。コピーして使うかCDから印刷してご利用ください。印刷はA4でもA3でもできます。

●床に描いた影を直方体に立ち上げます。

- ・壁のグリッドを目安に立ち上げて、直方体をつくります。
- ・重なるエレメントの直方体は奥のものから描いた方が描きやすいでしょう。
※ディテールを描くときは手前のものから描きます。
- ・すべてのエレメントを直方体に立ち上げて、バランスをチェックします。
※もし、バランスや見栄えが悪かったら、ここで配置を調整します。



透視投影図法（透視図法）

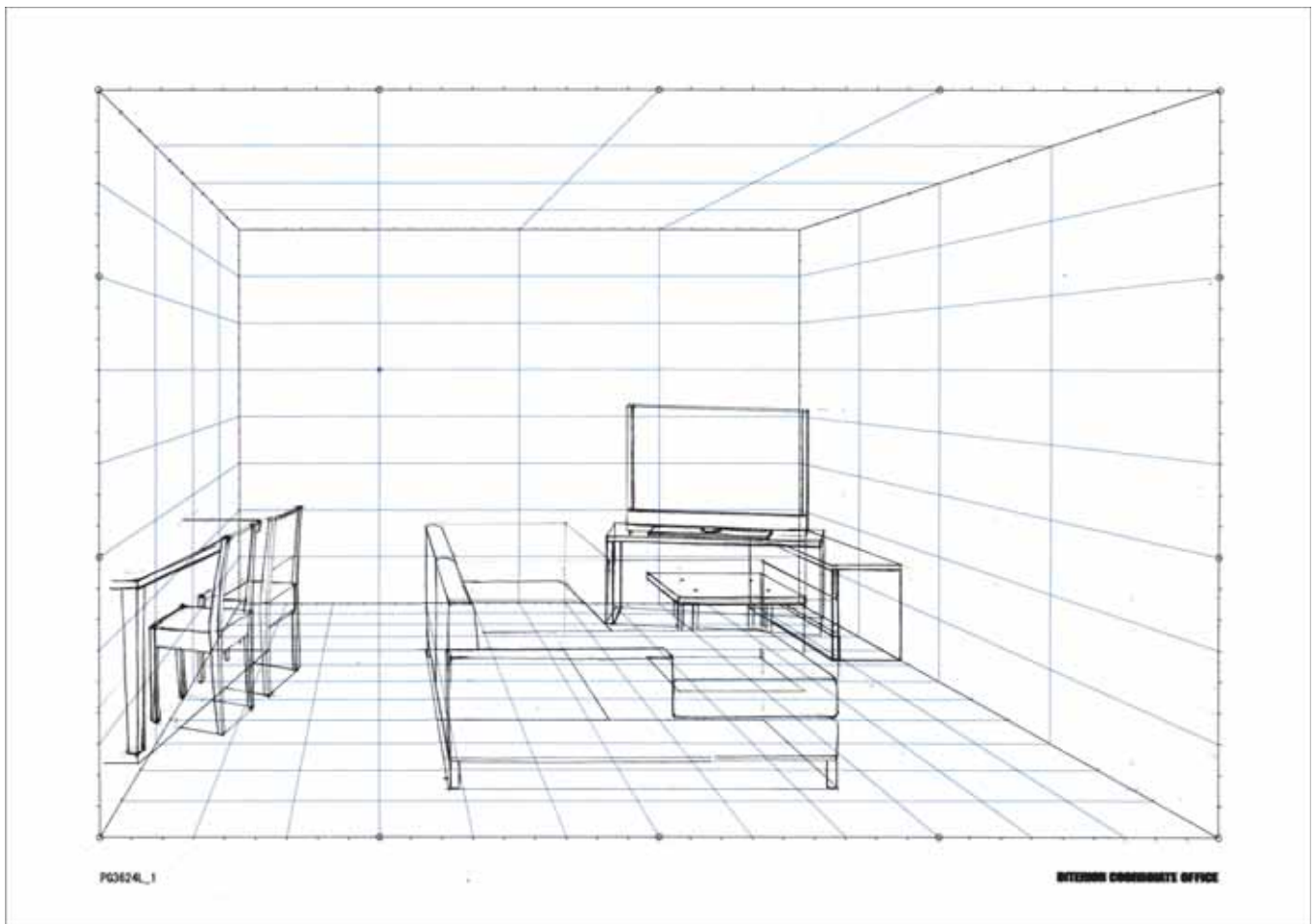
一点透視図法（平行透視図法）	二点透視図法（有角透視図法）	三点透視図法（斜透視図法）
		

ステップ 8 : ディテール

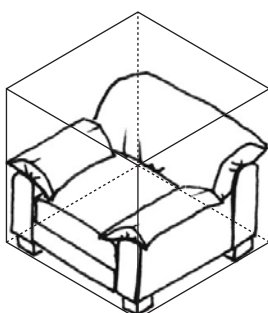
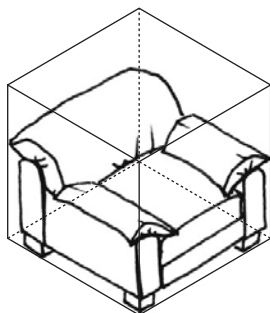
パース・1 消点

●直方体の中にエレメントのディテールを描きます。

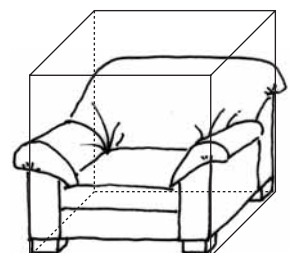
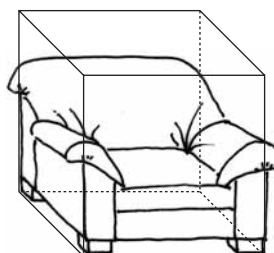
- ・カタログや資料を見ながらエレメントのディテールを描きます。
- ・こまかい寸法は気にせず、それらしく見えるように描くのがポイントです。
- ・そして全体のバランスに注意して描いてください。



Point・・・うまくかけないときは「ステップ3」のキャビネット図やアイソメ図のなかにエレメントを描く練習をしてください。別冊「インテリアエレメントリスト」はアイソメ図で描いてありますので参考にしてください。



アイソメ図



キャビネット図

ステップ 9 : 背景

パース・1 消点

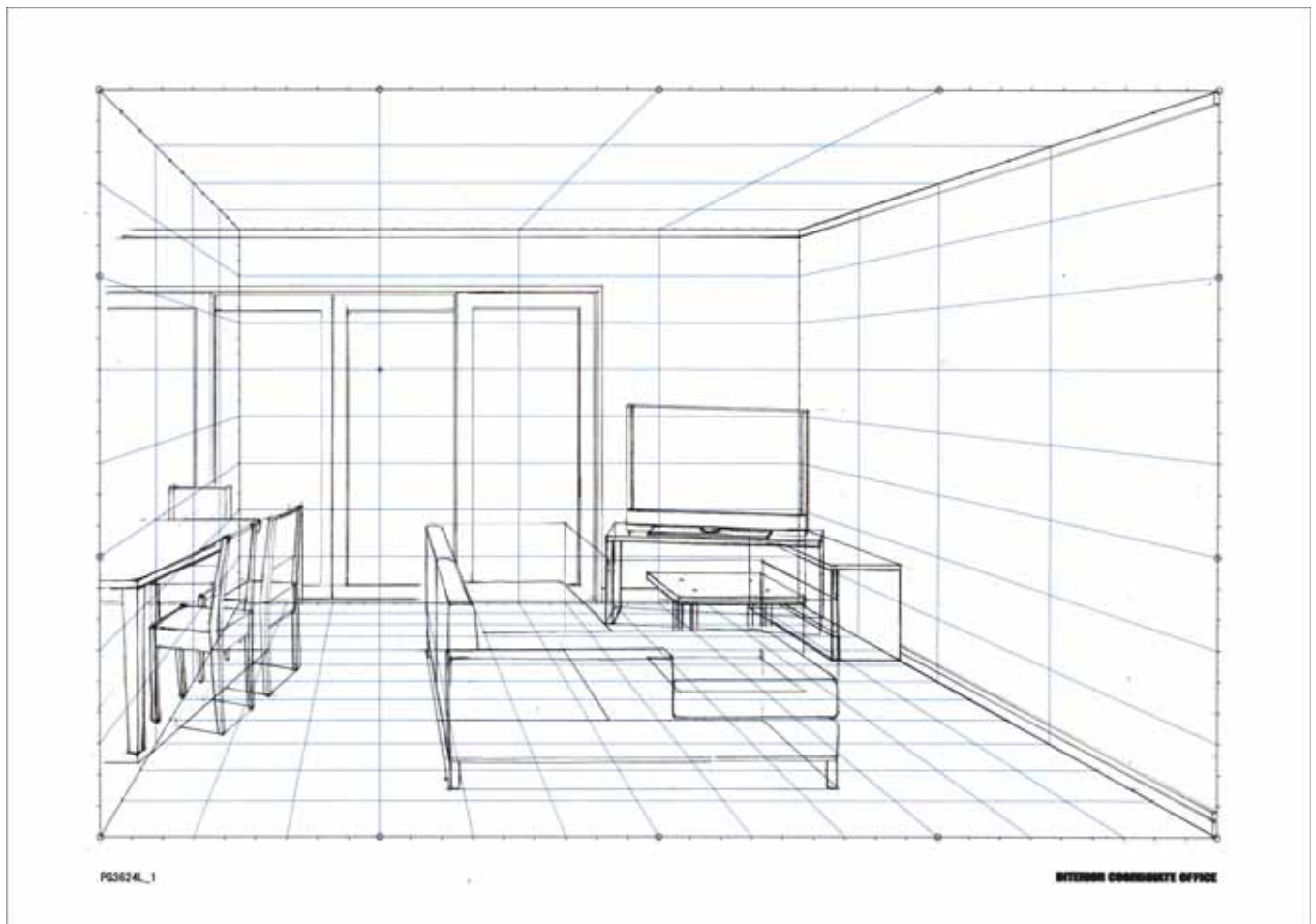
●窓・出入口・廻り縁・幅木など部屋の背景を描きます。

・壁面のグリッドを目安に、窓、出入口を描いていきます。

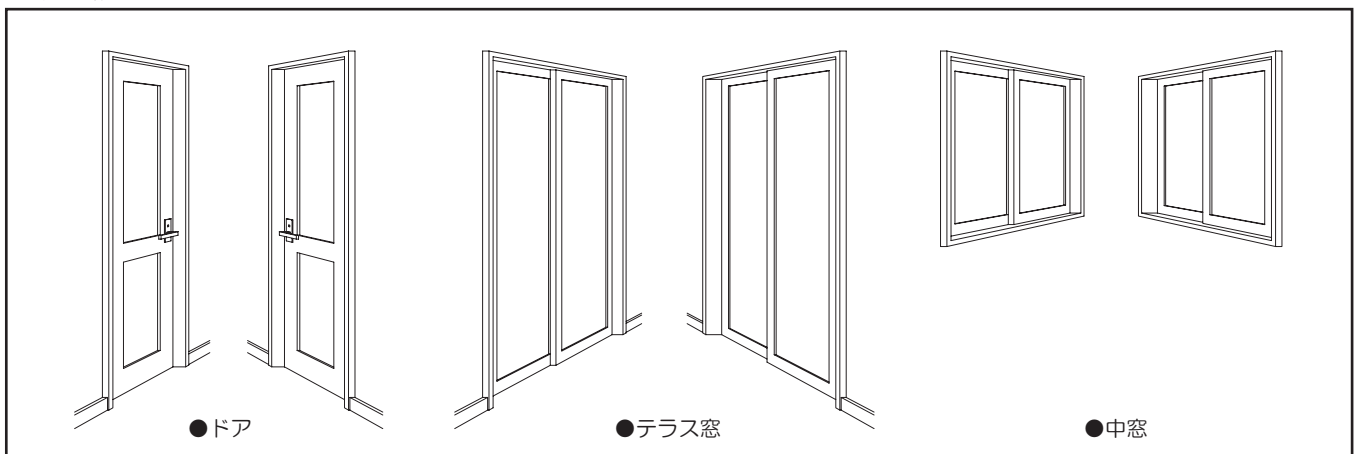
※二本引き戸は左奥、右手前に描きます。

・窓枠、ドア枠も立体的に見えるように注意しましょう。

・幅木、廻り縁は手前の断面から描くと描きやすいです。



建具の納まり

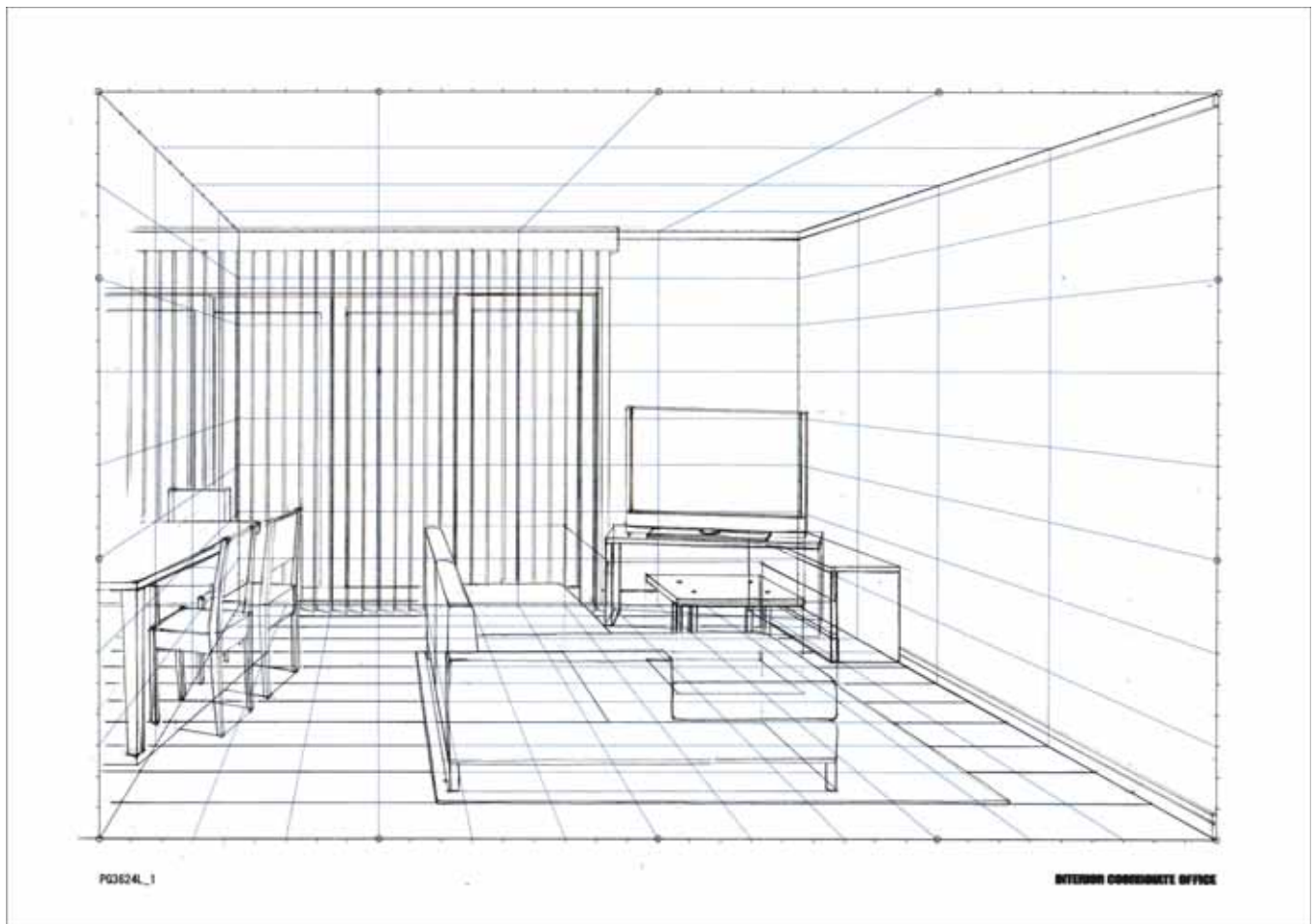


ステップ 10：ウィンドートリートメント・アクセントラグ

パース・1 消点

●カーテン・アクセントラグ・床を描きます。

- ・雑誌、カタログなどをよくみながら、窓にカーテンを描きます。
※「いんてりあ図鑑・ウィンドウトリートメント・スタイル」が参考になります。
- ・フローリングなどは床のグリッドにあわせて、ていねいに描きます。
- ・アクセントラグなども、一緒に描きましょう。



カーテンスタイル・・・「いんてりあ図鑑」より



ステップ 11：添景

パース・1 消点

●照明器具・観葉植物・小物を描きます。

- ・雑誌やカタログから気に入った観葉植物や照明器具とか小物の写真を切り抜いて、大きさや、角度に注意して下絵の上に配置します。

※大きさはコピーで拡大もしくは縮小して適当な大きさにします。

- ・添景がずれないようにテープで仮止めて、下絵と一緒にトレースします。

※普段から、添景になりそうな写真を集めておくと便利です。

- ・慣れたら写真などを見ながら下絵に直接描き込みましょう。

★ここで第4回目の添削です！



添景のいろいろ



ステップ 12：ドローイング

パース・1 消点

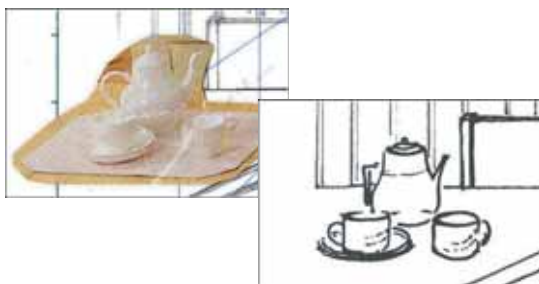
●下絵を、トレーシングペーパーにドローイングペンを使ってトレースします。

- ・添景を配置した下絵の上にトレーシングペーパーを重ねてずれないようにメンディングテープで固定します。
※トレーシングペーパーは、下絵と同じサイズで厚めのものが使いやすいと思います。
- ・線はドローイングペンの0.3mmを使って、大胆に思い切って描きましょう。
※少々ゆがんだりまがったりしても、始点と終点をしっかりと描けばそれなりに絵になります。
- ・ドローイングは、フリーハンドで手前のものから奥へ順にトレースしていきます。

Point・・・時間をはかって、はやくトレースする練習をすると勢いのある線が描けるようになります。
何度もトレースの練習をすると、添景など下絵なしでも描けるようになります。



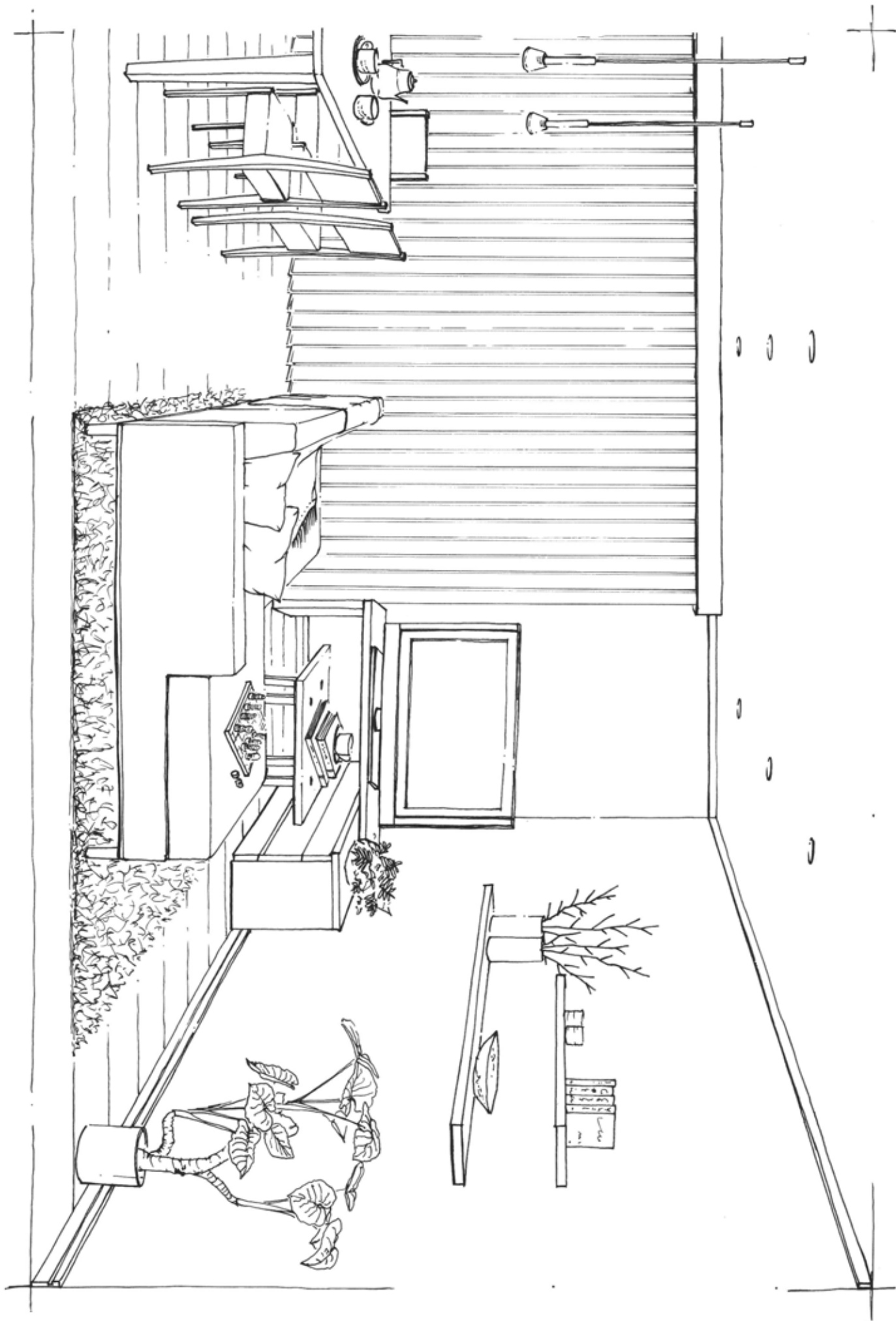
添景のトレース



●イメージをふくらませて・・・
自由にトレースします



●繊細に・・・
丁寧にトレースします



●天井・壁・床のカラーリング

- ・トレーシングペーパーにドローイングしたパースを、必要なサイズに縮小してマーカーパッドにコピーします。

※下絵を大きめに描いて縮小したほうがきれいに見えます。

- ・同じ色を重ね塗りすると濃くなりますから、薄いところから着彩していきます。
- ・壁のイメージは着彩する前に鉛筆やドローイングペンで下書きをしておきます。
- ・床はフローリングの線と交差するように全体を重ねたり透かしたりして塗り、エレメントの影や光の反射を同色で表現します。

Point・・・別冊「マーカーを使ったカラーリングのテクニック」を参考にしてください。



カラーリングテクニック



●ウォール



●PMパッド・コピックスケッチ

●エレメントのカラーリング

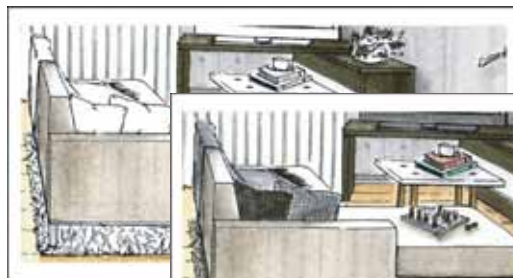
- ・ マーカーは重ね塗りによる混色はできませんから、ほかの紙で色を確認してから着彩するようにします。
※混ぜると濁った色になってしまい、マーカーのニブも汚れてしまいます。
- ・ ソファーは同系色のマーカーを何色か使って濃淡を表現し、ファブリックのイメージをだします。
- ・ ダイニングテーブルの天板など平らな面は垂直方向に塗り、薄いところや白いところを残して反射しているイメージをだします。
- ・ テーブルやテレビ台などの家具では、天板面と小口面では見え方が違ってきます。光の方向を考えて丁寧に塗り分けます。
- ・ マスキングテープを使って着彩するときれいに仕上がりますが、少々はみ出してもそれなりの味が出ます。



カラーリングテクニック



●チェアー



●ソファー



●小物・添景のカラーリング

- ・小物や添景はひとつひとつ、色のバランスを考えながら丁寧に塗ります。
- ・観葉植物の緑色や茶色も1色で仕上げるのではなく濃淡がでるように何色か重ね塗りをします。
- ・アクセントラグも、ソファの下は同系色の濃い色で影を表現します。
- ・クッションは柄をつけると、より雰囲気が出せます。
- ・照明器具は黄色を少し塗ることで光のイメージがでます。
- ・最後に全体のバランスをみてチェックします。

Point・・・塗りすぎや、影のつけすぎに注意しましょう！

★ここで第5回目の添削です！



作業風景



●定規を使って・・・



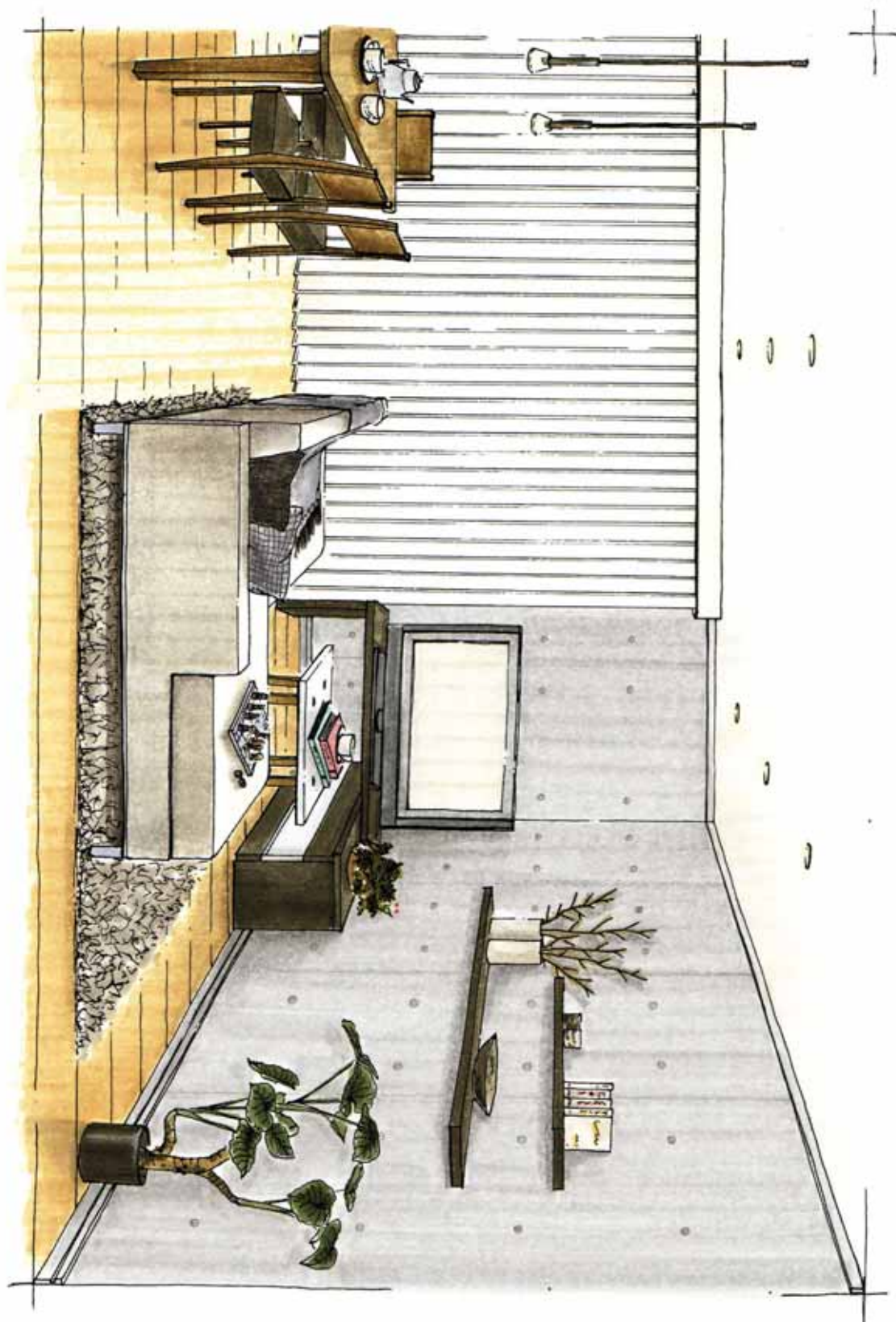
●フリーハンドで・・・



●トレース



●Tomoco でした・・・





Interior Zukan



携帯からの注文はQRコードで・・・
<http://icoffice.co.jp/zukan/k/>